

はじめに

本書は、鹿児島大学多島圏研究センター主催により2002年12月21日に鹿児島大学で開かれた多島域フォーラム「制度を生きる人々 フィリピン地域社会経済の学際的研究」における講演内容と総合討論に基づいて作成された報告書です。

私たち報告者5人は、経済学、政治学、文化人類学など、学問領域を異にしながらも、フィールドリサーチを主な手法として、フィリピン社会の研究をおこなってきました。今回のフォーラムの主旨は、フィリピンの人々、とくに地方社会に暮らす人々が制度とどのように向き合い、幸福の追求をおこなっているかという問題を、各報告者が各自の学問領域から明らかにすることでした。このテーマは相当に奥深く、しかも限られた時間の発表では十分に議論し尽くすことはできなかったにもかかわらず、コメンテーターをはじめ参加された皆様から様々なご意見・ご指摘をいただきました。このようなフォーラムにおける貴重な成果をできるかぎり本報告書に反映したいと思い、また、とりわけ「総合討論」については、会場の臨場感をそのまま伝えられるよう、さまざまな工夫を試みました。このようなわけで、本報告書の作成には1年近くの時間を費やすこととなりました。

本書の構成は、第1部の理論編、第2部の実証編、第3部の総合討論編の三部で構成されています。第1部の理論編は編集者の西村、川田がそれぞれ経済学、文化人類学の観点から、制度と行為主体（生活設計をおこなう人々）の関係を浮き彫りにするための理論的枠組みを提示しました。この部分はフォーラムの発表時には準備されておらず、フォーラムでの討論を受けて執筆されたものです。つぎの実証編はフォーラムでの報告内容をベースとしていますが、理論やデータの面で大幅な加筆修正をおこないました。第3部は、フォーラム当日の録音記録をすべて文字化し、そこでの議論を細大漏らさず掲載しました。この部分の作成にあたっては、発言者の方々すべてに目を通していただき、記録の不備などを補っていただきました。

このように、本書ができあがるまでには、多くの方々のご示唆やご協力が刺激となりました。年末のお忙しい時期に遠方よりおいでいただいたコメンテーターの方々、長時間のフォーラムに参加して下さったの方々、皆様に心から感謝の意を表します。

2003年12月

編者 西村 知・川田牧人

目 次

はじめに	西村 知・川田牧人	i
第1部 制度への学際的アプローチ		
1. 研究のアイデアと報告者の相互連関関係	西村 知・川田牧人	1
2. 地域社会経済の学際的アプローチ 行為主体の自発的行動と制度	西村 知	5
3. 制度への人類学的アプローチ	川田牧人	15
第2部 「制度を生きる人々」各論		
1. 国家資源支配の制度と過程	川中 豪	31
2. 町工場と親族ネットワーク	長坂 格	65
3. 制度と行為体的聴取者 セブ市のラジオ放送から聞こえてくること／見えてくるもの	川田牧人	95
4. 米国植民統治下におけるミンダナオ島支配と「モロ」としてのイスラム	鈴木伸隆	119
5. 農村部における行為主体と制度に関する一考察	西村 知	143
第3部 シンポジウム記録：総合討論		163
フォーラムプログラム		194

Preface

This volume of Occasional Papers number 40 in the series, is a report of a forum entitled *"Institutions in the Making: An Interdisciplinary Study on Social Life and Economy of the Philippine Local"*, which was held under the auspices of the Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands on 21 December 2002. Although we are scholars from different academic disciplines, we share the same approach to field study - investigating how people in local Philippine societies are pursuing their well-being. Since the theme is so complex and the time for the forum was limited, we were not able to discuss the topic fully. Nevertheless, all the commentators and other participants made valuable inputs, which contributed a lot in the preparation of this report.

The report consists of three parts. Part 1 presents the theoretical framework from the viewpoint of economics and cultural anthropology. Part 2 includes five case studies written by all the speakers. Part 3 is the record of discussion by the participants.

Finally, we are indebted to all the participants, especially the commentators, who came all the way to Kagoshima from other Prefectures and made valuable suggestions.

We are also grateful to the staff of the center, who organized the forum and made it possible for us to publish the report. We regard the forum as an important step in the enrichment of the Philippine study.

NISHIMURA Satoru and KAWADA Makito

December 2003

Contents

Preface	i
PART 1 INTERDISCIPLINARY APPROACHES TO INSTITUTIONS	
1. Concept and Framework of the Study / NISHIMURA Satoru and KAWADA Makito	1
2. Approach from Economics/ NISHIMURA Satoru	5
3. Approach from Anthropology/ KAWADA Makito	15
PART 2 CASE STUDIES	
1. Institutions and Process of State Resource Control / KAWANAKA Takeshi	31
2. Die Cutting Industry and Kinship Networks in Metro Manila / NAGASAKA Itaru	65
3. Active Listeners: Media-Saturated World and Social Institution / KAWADA Makito	95
4. Mindanao Rule under the American Colonial Period and "Moro" Muslim / SUZUKI Nobutaka	119
5. A Study on Institutions and Rural Lives in the Philippines / NISHIMURA Satoru	143
PART 3 DISCUSSION: what were told in the forum	163
Program of the Forum	194